補助教材の形式が受講者に与える影響

——一般市民向け講座の事例から——

○中村哲之¹

(¹ 東洋学園大学)

キーワード：講義資料、動機づけ、注意

Effects of the format of the handout on learners

- a case study of a lecture open to the public -

Noriyuki NAKAMURA¹

(¹Toyo Gakuen University)

Key Words: handout, motivation, attention

目 的

学習心理学、発達心理学、認知心理学の観点から、教育者が提供できる適切な学習環境とは何かを考えるための調査の一環として、補助教材の形式（穴埋め形式の資料）が受講者の意欲にどのような影響を与えるかについて検討した。学生の要望があったことから、大学の講義では穴埋め形式の講義資料を使った授業をおこなっているが、その成果もあつて、学内の授業評価アンケート調査などでは概ね高評価を得ている。また、高校での訪問講義でも、同様の形式の補助教材を用いた心理学の授業をおこなった結果、穴埋め形式の補助教材のおかげで理解が促進されたといった感想（自由記述）をいただいたこともある（中村、2017）。このような補助教材の形式は、社会人教育あるいは生涯教育の場においても有効に働きのだろうか。本調査では、穴埋め形式の補助教材を用いることが、市民講座の受講者にプラスに働くのかどうかについて検討をおこなった。

方 法

【調査協力者】 調査者が2017年度に担当した市民講座（隔週開講、90分×6回、錯視に関する内容）を受講した38名のうち、最終日に受講された32名（40～80歳代）がアンケートに回答した（表1）。

【手続き】 各回の講座で、講座内容のスライドを印刷したノートテイキングの補助教材資料を（A4サイズカラー両面刷り、枚数は回によって変動）用意した。当日配布した資料は当該回の講義内で完結させた。最終日にあたる第6回目の講座の最後に、「教材についての満足度（2選択：わかりやすい／わかりにくい）とその理由（自由記述）」「講座全体の満足度（0～100%）」を含むアンケート調査を実施した。

結 果

「講座全体の満足度（0～100%）」の結果は、表2の通りとなった。平均90%、100%と回答した人が10名（全受講者の31.3%）いたことから、講義そのものに対しての満足度は高いことが分かった。

「教材についての満足度（2選択：わかりやすい／わかりにくい）」に対する結果は、「わかりやすい」が30名（93.8%）、「わかりにくい」が1名（3.1%）、未記入1名（3.1%）であった。

「教材についての満足度に対するその理由（自由記述）」について、

「穴埋め形式」の資料に言及した回答が5件（15.6%）あり、その全てが肯定的なものであった。具体的には、「きちんと耳を傾けていないといけない」「より集中できる」「楽しい」といった記述があった。その他に挙げられていた理由としては、「カラー印刷であったこと（5件）」「実験の映像があったこと（3件）」「スライドと同じ資料が配付されたこと（2件）」「簡単な実験があったこと（1件）」などがあつた。

考 察

講座に使用する補助教材の形式（穴埋め形式の資料）が、一定数の受講者に対して受講意欲を増進させるために重要な役割を担っていることが分かった。本調査では自由記述形式のみであったが、直接的に「穴埋め形式の資料に対する満足度」に関する質問項目を入れることができれば、より詳細な結果が分かったかもしれない。しかし、大学生の講義や高校生向けの授業のみならず、一般市民向けの講座においても、補助教材の形式を工夫することによって、受講生の意欲を増進させることができる可能性が示された。このような工夫を重ねながら研究成果を提供していくことが、今の教育者にできることの1つかもしいない。今後は、さらに別の内容に関する講座などでも調査を重ねることで、本調査から示唆された知見の普遍性に関して検討をしていきたい。

表1. 受講者の年齢分布

30歳代以下	0
40歳代	1
50歳代	4
60歳代	15
70歳代	10
80歳代	2
90歳代以上	0

表2. 本講座に対する
全体的な満足度

0～30%	0
31～49%	0
50～70%	2
71～99%	20
100%	10
未記入	0